

平成27年度 水道事業会計予算

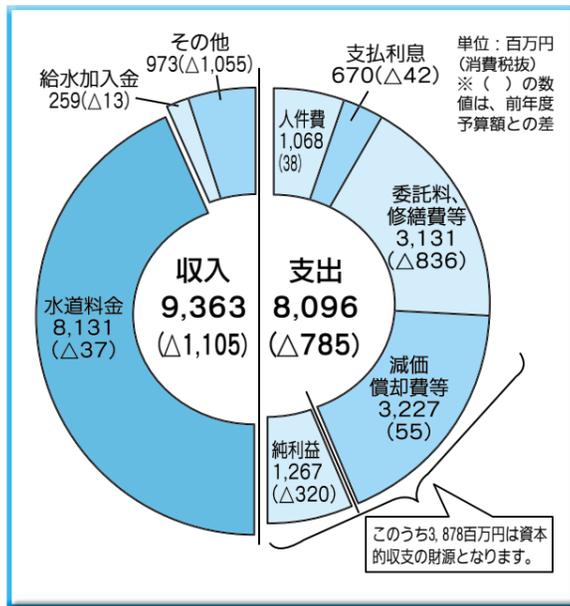
～みなさまからいただいた水道料金はどのように使われます～

水道料金収入は、平成24年度には震災前の水準近くまで回復したものの、その後は震災前と同じく減少傾向にあり、今後もその傾向が続くものと見込まれます。

このため、事務事業の簡素・効率化など経費の節減に努めながら、老朽施設の更新などの対策を計画的に実施するため、次のとおり予算を計上しました。

収益的収支

水道水をつくり、お届けするための収支



収入では、総額約93億6,300万円を見込んでいます。前年度と比較すると約11億500万円の減となりますが、前年度には会計制度変更に伴う一時的な影響分約10億3,700万円が含まれるため、これを除くと、実質的には約6,800万円の減となり、主に水道料金の減少分です。

一方、支出では、総額約80億9,600万円を見込んでいます。前年度と比較すると約7億8,500万円の減となりますが、前年度には同じく一時的な影響分約11億900万円が含まれるため、これを除くと、実質的には約3億2,400万円の増となり、主に減価償却費や修繕費の増加分です。

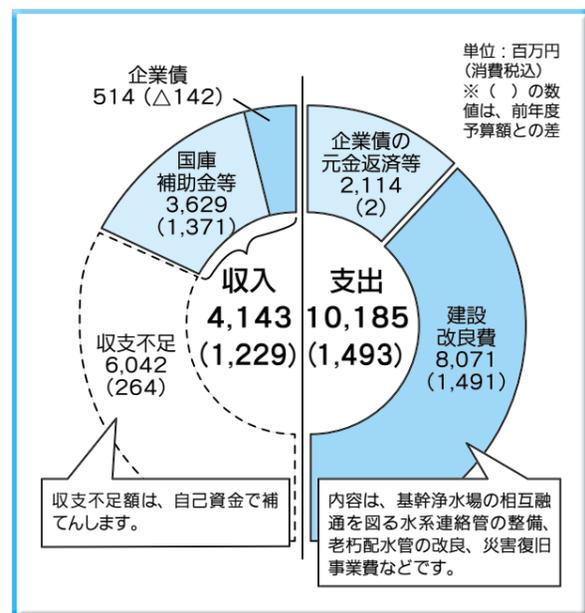
以上により、収入から支出を差し引いた純利益は、約12億6,700万円となり、水道施設を整備するための財源となります。

資本的収支

水道施設を整備するための費用と財源

支出では、総額約101億8,500万円を見込んでいます。建設改良費は、災害復旧のための費用や老朽化した水道施設の改良・更新のための費用などで約80億7,100万円、また、施設整備のために過去に借り入れた企業債の元金返済額などで約21億1,400万円となっています。

これらの財源としては、借入金である企業債、災害復旧のための国庫補助金などで、総額約41億4,300万円を見込んでいるほか、残りの約60億4,200万円については、自己資金(上記の収益的収支で確保した純利益、減価償却費相当分の資金等)で補てんします。



○お問い合わせ 経営企画課財政係 TEL 22-9313

直結給水方式をご存じですか？

水道局は、水道水の安全や安定供給の確保を目的に、給水サービスの充実に努めています。

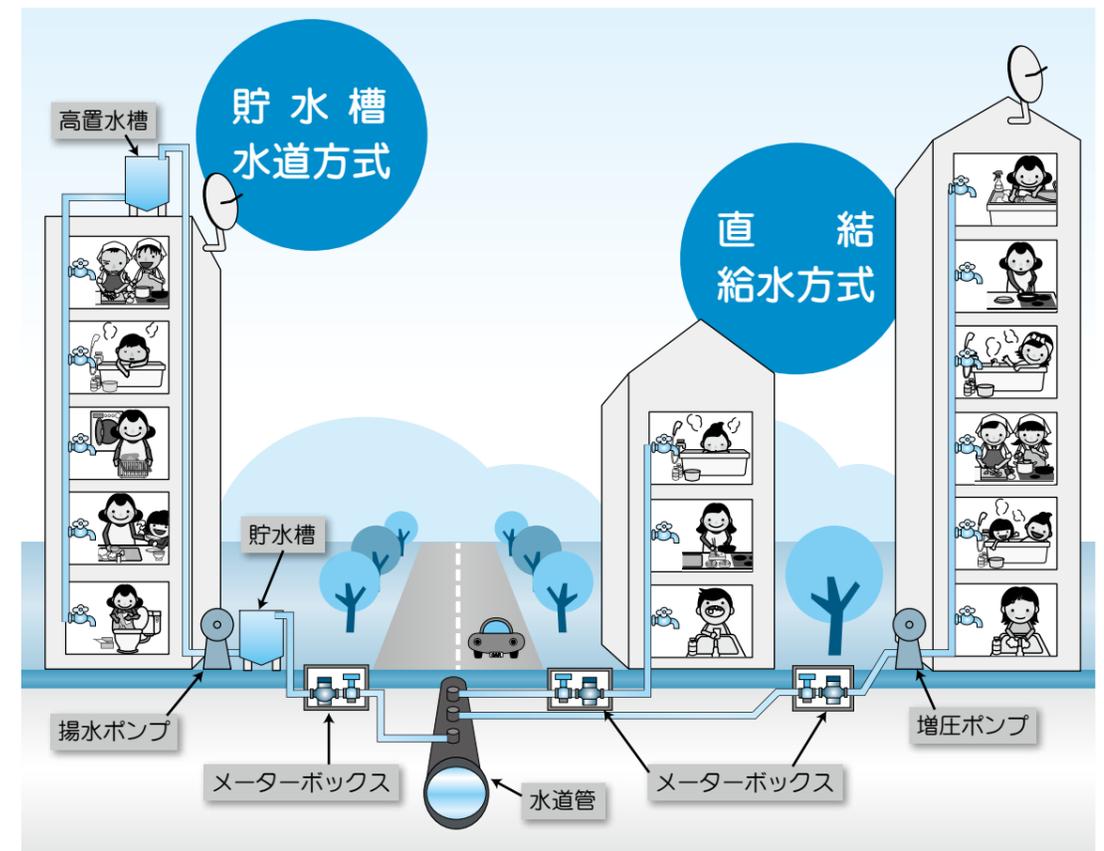
その一つとして、貯水槽の衛生問題の解消、省エネルギーの推進や設置スペースの有効利用などを図るため、貯水槽を使用しない直結給水方式の拡大を進めています。

問1・直結給水方式って何？

答1・道路などに埋設されている水道管から、貯水槽を使用しないで、ご家庭の蛇口に水道水を直接給水する方式のことです。

問2・どこでも直結給水方式にできるのですか？

答2・水道管の水圧が、十分確保されていることが条件となります。



〈直結給水で得られる効果〉

- (1) 貯水槽を通さずに水道水を飲むことができます。
- (2) 貯水槽の点検・清掃が不要となります。
- (3) 貯水槽が不要なため、スペースを有効に活用できます。
- (4) 水道管の圧力を利用するため、エネルギーの有効利用となり、電気使用料も減少します。

直結給水をご希望される方で、工事費用やお住まいの地区が直結給水が可能かどうかを知りたい方は、いわき市指定給水装置工事事業者へご相談ください。

指定事業者については、営業課給水装置係にお問い合わせいただくか、水道局ホームページをご覧ください。なお、「すいどういわき第56号(5～6頁)」にも掲載しております。

○お問い合わせ 営業課給水装置係 TEL 22-9304

いわき市指定給水装置工事事業者へご相談ください。

一滴一リラム。直結給水方式に変更したい場合はどうすればいいの？